

**平成15年度  
講義配信による研修の試行について  
(報告)**

平成16年2月

講義配信による研修実行委員会  
独立行政法人国立特殊教育総合研究所

# 目 次

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| はじめに.....                              | 3  |
| 1 講座実施計画書及び実施状況 .....                  | 5  |
| (1) 北海道立特殊教育センター .....                 | 7  |
| (2) 宮城県特殊教育センター.....                   | 11 |
| (3) 滋賀県総合教育センター .....                  | 14 |
| (4) 大阪府教育センター.....                     | 18 |
| (5) 広島県立教育センター.....                    | 21 |
| (6) 宮崎県教育研修センター .....                  | 24 |
| 2 平成15年度講義配信を利用した研修に関するアンケート調査結果 ..... | 29 |
| (1) 受講者について                            |    |
| ①受講者の状況                                |    |
| ②講座内容の期待程度                             |    |
| ③インターネットによる講義方法の予想程度                   |    |
| ④画面、音声、講義時間                            |    |
| (2) 講座担当者について                          |    |
| ①講座内容の期待程度                             |    |
| ②インターネットによる講義方法の予想程度                   |    |
| ③画面、音声、講義時間                            |    |
| ④インターネットによる講義配信の利用意向                   |    |
| 3 総括 .....                             | 35 |
| (1) 配信講義の工夫                            |    |
| (2) 配信画面の使い方の工夫                        |    |
| (3) 研修講座の構成での留意事項                      |    |
| (4) 配信講義の質・量的な拡充の検討                    |    |
| (5) 技術的な面での留意事項                        |    |
| (6) 事務手続きの検討                           |    |
| 4 資料 .....                             | 39 |
| (1) 配信希望講義調査（平成14年度実施）                 |    |
| (2) 平成15年度国立特殊教育総合研究所講義配信による研修実施要項     |    |
| (3) 平成16年度国立特殊教育総合研究所講義配信実施要項          |    |

## はじめに

講義配信は、各自治体の特殊教育センター等における研修の充実に資するため、国立特殊教育総合研究所の短期研修や講習会等での講義のうち、専門性の高い内容や喫緊の課題等の講義を録画・収録してインターネットを利用して配信するものである。

特殊研が実施するこの講義配信に関して、これまで次のような提言がなされてきている。まず、「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）～一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について～」(平成12年1月)第4章では、「インターネットや衛星通信など情報通信手段の活用を工夫し、研修事業の成果を効果的に普及し、活用すること。」と提言され、その解説において、「総合的、実践的な研究の成果を生かし、全国の特殊教育の指導者を対象とした講習会や喫緊の課題に関する研修を一層充実するとともに、全国の特殊教育に関する研修事業の情報をインターネット等を通じて提供したり、情報通信ネットワークを活用して研修の講義を配信するなど、各都道府県における研修の充実に支援することが求められている。」と述べられた。続いて「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」(平成15年3月)第5章では、「近年、都道府県等各自治体における研修も活発に行われるようになってきており、今後は、自治体独自で実施することが困難な内容の研修の開催や自治体の研修活動への協力を行うとともに、また、情報技術の活用等を通じて、研修活動の一層効率的、効果的な実施に向けて具体的に取り組んでいくことが求められる。」と提言された。

これらの提言により、本研究所の中期目標に講義配信の実施が明示され、平成14年度に講義配信のための準備が行われた。準備の一環として、各自治体の特殊教育センター等を対象として、短期研修の各コースの講義、講習会での講義を例示して、配信希望講義調査が実施された。調査結果は、例示された講義の全般にわたって希望があり、特に多かったのは、LD、ADHD、高機能自閉症の理解と指導に関する講義であった。

平成15年度に本実行委員会が設置され、特殊教育センター等の協力を得て試行を実施した。配信した講義と配信自治体は次の通りである。

| 講 義 題 目            | 講 師 名 | 時 間 | 配 信 自 治 体           |
|--------------------|-------|-----|---------------------|
| 軽度発達障害児の理解と指導      | 渥美 義賢 | 62分 | 宮城県、滋賀県、<br>大阪府、宮崎県 |
| LD、ADHD等軽度発達障害への対応 | 柘植 雅義 | 80分 | 北海道、滋賀県             |
| ADHDの理解と支援         | 花輪 敏男 | 73分 | 滋賀県、広島県             |
| 心理検査の解釈            | 海津亜希子 | 65分 | 広島県                 |
| 高機能自閉症児の理解と支援      | 東條 吉邦 | 75分 | 滋賀県、広島県             |

本報告書は、平成15年度に実施した講義配信の試行状況と平成16年度以降の本格実施の課題を整理するものである。

平成16年2月

独立行政法人国立特殊教育総合研究所  
講義配信による研修実行委員会  
委員長 竹林地 毅

# **1 講座実施計画書及び実施状況**

# インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 北海道立特殊教育センター

2 講座の趣旨

特別支援教育をすすめていく際の実践上の課題について、講義、実技、演習等をととして解決の支援を行う。

3 講座の内容

2日間にわたって開催される研修会の選択講座のひとつ（講義B）として実施する。（他の講座との関連については「9 備考」を参照。）

4 講座の対象者及び定員

北海道内の小・中学校、盲学校、聾学校及び養護学校教職員等 100名

5 実施予定日・時間

(1) 平成15年7月31日（木）10:00～12:00

(2) 平成15年8月1日（金）10:00～12:00

6 講座の日程

|     | 内 容                               | 形態 | 時 間         | 配信する講義・担当者                                                             | 資料   |
|-----|-----------------------------------|----|-------------|------------------------------------------------------------------------|------|
| (1) | LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導 | 講義 | 10:00～12:00 | 文部科学省初等中等教育局<br>特別支援教育課特別支援教育調査官 柘植 雅義<br>(6月17日「LD, ADHD等軽度発達障害への対応」) | レジメ他 |
| (2) | LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導 | 講義 | 10:00～12:00 | 文部科学省初等中等教育局<br>特別支援教育課特別支援教育調査官 柘植 雅義<br>(6月17日「LD, ADHD等軽度発達障害への対応」) | レジメ他 |

7 講座担当者 実施機関： 情緒障害教育室 矢口 明  
特殊研： 情報教育研究部 大杉 成喜

8 講座実施までのスケジュール

3月19日 受信申し込み

5月 6日 受信確認依頼

5月 7日 実施機関担当者の変更と受信確認

5月14日 講義利用に関する確認

## 9 備考

研修講座全体の構成と日程

<第1日 7月31日(木)>

|       |       |                                              |                                             |                             |                          |
|-------|-------|----------------------------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------|
|       | 9:30  | 受付                                           |                                             |                             |                          |
| I     | 10:00 | ◆講義・実技A<br>「特殊教育用コンテンツの作成」①<br>(映像を活用した教材作成) | ◆講義B<br>「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」 | ◆講義・演習C<br>「特殊学級経営と学習指導」    | ◇自己研修<br>○実践上の課題に応じた個人研究 |
|       | 12:00 |                                              | インターネット配信                                   |                             |                          |
| 昼食・休憩 |       |                                              |                                             |                             |                          |
| II    | 13:00 | ◆講義・実技A<br>「特殊教育用コンテンツの作成」②<br>(映像を活用した教材作成) | ◆講義・演習D<br>「自閉症児の理解と指導」                     | ◆講義E<br>「今後の特別支援教育の在り方について」 | ◇自己研修<br>○実践上の課題に応じた個人研究 |
|       | 14:45 |                                              |                                             |                             |                          |
| III   | 15:00 | ◆講義・実技A<br>「特殊教育用コンテンツの作成」③<br>(映像を活用した教材作成) | ◆実践報告F<br>「乳幼児のコミュニケーション発達支援」               | ◇自己研修<br>○実践上の課題に応じた個人研究    |                          |
|       | 16:45 |                                              |                                             |                             |                          |

<第2日 8月1日(金)>

|       |       |                                                |                                             |                             |                          |
|-------|-------|------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------|
|       | 9:30  | 受付                                             |                                             |                             |                          |
| I     | 10:00 | ◆講義・実技G<br>「特殊教育用コンテンツの作成」①<br>(音楽素材を活用した教材作成) | ◆講義B<br>「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」 | ◆講義・演習C<br>「特殊学級経営と学習指導」    | ◇自己研修<br>○実践上の課題に応じた個人研究 |
|       | 12:00 |                                                | インターネット配信                                   |                             |                          |
| 昼食・休憩 |       |                                                |                                             |                             |                          |
| II    | 13:00 | ◆講義・実技G<br>「特殊教育用コンテンツの作成」②<br>(音楽素材を活用した教材作成) | ◆講義・演習D<br>「自閉症児の理解と指導」                     | ◆講義E<br>「今後の特別支援教育の在り方について」 | ◇自己研修<br>○実践上の課題に応じた個人研究 |
|       | 14:45 |                                                |                                             |                             |                          |
| III   | 15:00 | ◆講義・実技G<br>「特殊教育用コンテンツの作成」③<br>(音楽素材を活用した教材作成) | ◆実践報告F<br>「乳幼児のコミュニケーション発達支援」               | ◇自己研修<br>○実践上の課題に応じた個人研究    |                          |
|       | 16:45 |                                                |                                             |                             |                          |

## 北海道立特殊教育センター

受信場所：北海道立特殊教育センター 大研修室

講座名：「平成15年度 夏期自主的研修セミナー」の1コマ「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」として実施。いくつかの講義の中から選択し受講する形態である。講義配信については視聴のみ。最後に少し質疑応答の時間が取られ、担当者が答えられる範囲で回答された。

実施日時：平成15年7月31日(木) 8月1日(金) 10:00～12:00

受講者：1日目86名 2日目44名

受信状況：画像音声ともおおむね良好

講義視聴：No.177「LD, ADHD等軽度発達障害への対応」柘植 雅義 (01:19:32)

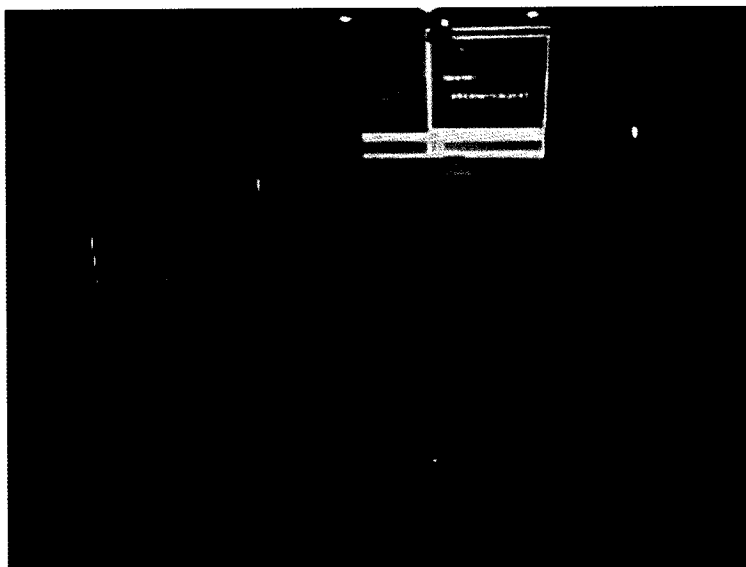
### 視聴の様子

#### 1日目

- ・最初に「特殊研から送付された資料が短期研修時の資料をそのまま印刷して配るのは好ましくない。せめて、タイトル等を講義配信用に作り直したレジメを用意してほしい。」との指摘をいただいた。北海道立特殊教育センターではプレゼン資料がPowerPointの場合はそれをハンドアウト資料（6分割で表示）として印刷配布しているのでぜひそうしてほしいとの依頼を受けた。速やかに竹林地先生に連絡を取り、中休みにプレゼン資料を印刷配布した。結果として、このハンドアウトの配布は好評であった。
- ・コンテンツの「3.支援体制の構築に向けた取り組み」の前で中休みをとる（11時頃）
- ・講義の中の海外の資料や特別支援教育基礎資料を参照にするところでは、会場担当の職員が照明を明るくして視聴を進められた。

#### 2日目

- ・講座タイトルが「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」であったが、配信の講義内容は教育制度や施策を中心とした話であり、1日目のアンケートではタイトルの「理解と指導」とギャップがあったとの指摘が多かった。翌日は、最初にセンター職員から講座のタイトルと配信講義の内容が少し違うことについて説明があった。
- ・1日目は配信される画面構成をそのままプロジェクタで表示していたが、2日目は



は目次を表示せず、ビデオ画面を200%に拡大して表示を行った。画面のスペースの関係でビデオ画面は左右が切られた縦長表示となる。人物が左右に少し動くと切れてしまうので、担当者がそれに合わせて表示を微調整した。

#### センターの講座評価より

- ・センターのアンケートでは、1日目の結果は「大いに満足（13.6％）満足（54.2％）やや不満（27.1％）不満（5.1％）（回答率68.6％）」という結果であった。満足度の平均点は2.8で他の講義と比べて低いそうである。これは講義配信という一方的な形態であること、「講座タイトルと講義内容にギャップがあった」ためと考えられる。「具体的な子どもの指導についての話がなかった。」という指摘が多かったことも理由と考えられる。
- ・「講義は予想したものとは違っていたが、内容については不満はない。」という意見もあった。ただし、「子どもの指導については連続する別の講座で紹介する必要がある」という意見が見られた。事前にシラバス等の提示があると受講者にもわかりやすいとの意見をいただいた。
- ・講義を収録する時点で、インターネットによる講義配信を想定した講義の構成を考える必要があろう。当初のコンセプトである「短期研修の講義の一部をそのままインターネットで配信する」というものには無理があると考えられる。「講義配信のための収録を行う講義」についてそのノウハウをまとめて講師に伝える必要があろう。

# インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 宮城県特殊教育センター

2 講座の趣旨

- (1) 「軽度発達障害児の理解と指導」について研修を行う。  
 (長期研修員の研修講座の一つとして実施する。長期研修員の研修講座では全障害についての理解を深めるための講座が用意されている。)

3 講座の内容

- (1) 「軽度発達障害児の理解と指導」  
 LD, ADHD, 高機能自閉症等に関するもの(概要、指導法等)  
 60分の講義配信を受け、参加者で協議を行う。担当指導主事が全体を進めて行く。

4 講座の対象者及び定員

宮城県教育センター長期研修員 15名(特殊教育諸学校及び特殊学級の教員)

5 実施予定日・時間 平成15年7月18日(金) 13:30~16:00

6 講座の日程

| 内 容           | 形態       | 時 間                             | 配信する講義・担当者                                      | 資料           |
|---------------|----------|---------------------------------|-------------------------------------------------|--------------|
| 軽度発達障害児の理解と指導 | 講義<br>協議 | 13:30~<br>全体の時間配分は未定。配信希望内容は60分 | 情緒障害教育研究部長<br>渥美 義賢<br>「軽度発達障害児の理解と指導」<br>(別撮り) | 配信内容<br>レジメ等 |
| まとめ           | 協議       | ~16:00                          |                                                 |              |

7 講座担当者 実施機関:

内容について 指導主事 鈴木 眞喜夫 chief@tokusyu.myswan.ne.jp  
 技術面について 相澤 一夫 アドレスは上記に同じ

特殊研: 視覚障害教育研究部 澤田 真弓

8 講座実施までのスケジュール

- ・15年度に入ってから参加者(長期研修員)15名の名簿を研究所に送付。
- ・技術面の打ち合わせについては特殊研担当者(大杉)より連絡を入れる。
- ・レジメ等のテキスト送付
- ・当日内容面で質問がでた場合は、後日回答できるようにしていく。
- ・今年度試行であり、正式実施に向けてより良いものにしていくため、当日、特殊研より1名、センターに伺う。

## 宮城県特殊教育センター

受信場所：宮城県特殊教育センター 大講義室

講座名：「軽度発達障害児の理解と指導」（長期研修員の研修講座の一つとして実施）

実施日時：平成15年7月18日(金) 13:30～16:00

受講者：宮城県特殊教育センター長期研修員 14名（特殊教育諸学校及び小・中学校の教員）

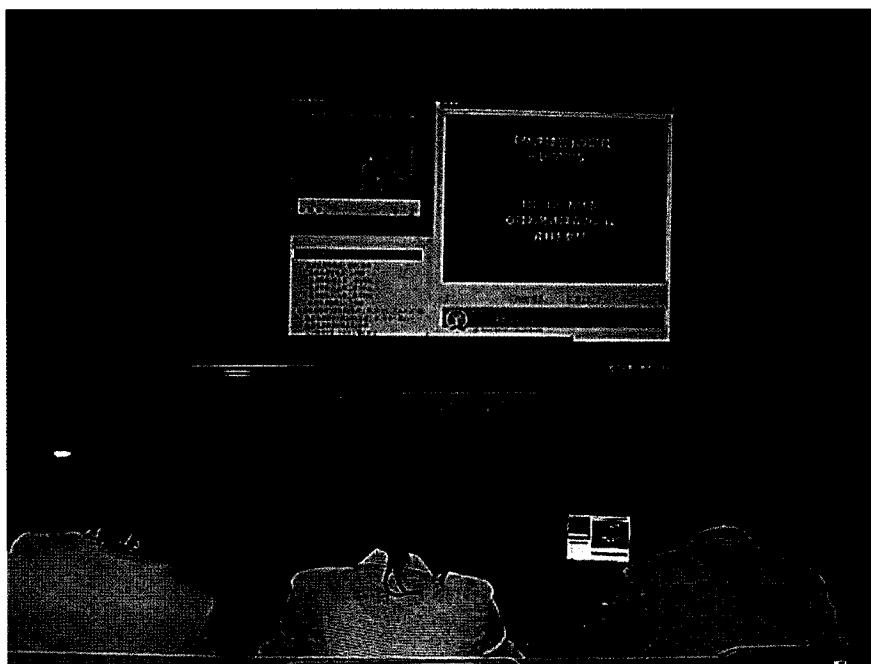
受信状況：画像音声ともおおむね良好だが、若干データの遅延がみられた。（保護者支援の話の時に、次の画面になっている。途中で3秒ほど画面が止まる。）

講義視聴：No.173「軽度発達障害児の理解と指導」渥美 義賢（01:02:21）

60分の講義配信を受け、参加者で協議を行う。担当指導主事が全体を進める。

受講者より：

- ・画面に変化がなかったので、資料を見ながら聞くという感じであった。どちらかと言えばラジオ風であった。テレビ番組のようになったらよい。
- ・画面として動きが欲しい。ビデオ等利用してもらえると分かりやすい。NHKの「にんげんゆうゆう」のように実際の場面等の紹介があった方が分かりやすいし飽きない。
- ・双方向でできて、視聴のあと、質問に答えてもらえてと思っていた。



センター職員より：

- ・プレゼンも含めてビデオで撮って、それを配れば良い内容ではないか。その場で聞きたいことがあった場合に対応できるようなものであると良い。
- ・資料があり、講義を聴いていたら、あえて講師の顔を見なくてもよい構成ではないかと感じた。あの資料とともにプレゼンの画面資料が手元にあったら分かりやすい。
- ・我々はテレビを見慣れてしまっており、目が肥えているので、ものたりなく感じてしまう。変化がないので1時間全部聞くのは辛い。項目ごとに構造化するなり、ブロック化されると使いやすくなるのではないか。現在もスライドごとに、項目をクリックしたらそこに飛ぶようになっているが、前後関係がわかるような構成になっているとよい。
- ・ターゲットをどの辺におくかによって、内容がちがってくるであろう。初心者向けなのか、ある程度基礎のできている人を対象にするか、いくつかのパターンが欲しい。
- ・今後、配信メニューが増えていくのであろうが、インデックスのところで、どのくらいの時間で、どのような内容なのかが分かるようにしてほしい。シラバスが欲しい。
- ・講義内容で、シナリオのあるようなものもあってもいいが、研修員とのやりとりもあるような構成があると良い。研究所ではこのような講義をしているのかというような、臨場感のあるものがいいのではないか。
- ・特殊研へ旅費を出して行かなくても、こちらで、生で講師の先生の講義が聞ける。向こうで受講している人と同じ物をというのが欲しい。同じ講義を聞けるのだということがメリットではないか。質問もできるような環境があると良い。

考察：

- ・ニーズ調査をしているし、今回もセンターの受講者がどのような人たちなのか、センターと打ち合わせをして、内容も検討してきている。60分が本当に良いのか、30分が良いのか等、時間も何種類もあっていいのではないかと、試行結果を見ながら、検討していく。今後、さまざまなパターンを考えながら作成していく必要があるだろうと思う。さまざまなパターンの中から、センターでチョイスすることができるようにしたい。

# インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 滋賀県総合教育センター

2 講座の趣旨

・特別支援教育 特別講座「特別な教育ニーズに応じた教育的支援」

LD, ADHD, 高機能自閉症等の特別な教育的支援が必要な子どもの理解を深め、対応のあり方を研修する。

3 講座の内容

(1) 特別な教育的支援が必要な子どもの理解（センターでの講義：学識経験者）

(2) 特別支援教育特別講座Ⅰ（特殊研からの講義配信：会場 滋賀大学教育学部附属養護学校）

－LD, ADHD, 高機能自閉症の理解と対応１－ ※講義配信を利用

(3) 特別支援教育特別講座Ⅱ（特殊研からの講義配信：会場 滋賀大学教育学部附属養護学校）

－LD, ADHD, 高機能自閉症の理解と対応２－ ※講義配信を利用

(4) 特別支援教育特別講座Ⅲ（特殊研からの講義配信：会場 滋賀大学教育学部附属養護学校）

－LD, ADHD, 高機能自閉症の理解と対応３－ ※講義配信を利用

4 講座の対象者及び定員

保・幼・小・中・高・特殊教育諸学校教職員 60名

※(1)の定員のみ200名 それぞれ1日のみの受講も可能としている。

5 実施予定日・時間

(2) 平成15年8月18日（月）9：30～12：00

(3) 平成15年8月19日（火）9：30～12：00

(4) 平成15年8月20日（水）9：30～12：00

6 講座の日程と内容

| 内 容                                                                                                                                                     | 形態           | 時 間        | 配信する講義・担当者                                                                             | 資料   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 特別支援教育<br>特別講座Ⅰ                                                                                                                                         | 講義<br><br>協議 | 9:30～12:00 | 文部科学省初等中等教育局<br>特別支援教育課<br>特別支援教育調査官 柘植 雅義<br>(研究所講義 6月17日「LD,ADHD<br>等軽度発達障害への対応」を視聴) | レジメ他 |
| 備考：<br>講義配信は90分程度を予定。<br>残った時間は協議を行う。<br>参加者の西谷 淳教諭（甲賀郡甲西町立三雲小学校）に滋賀県内の事例として甲西町発達支援センターの事例等を紹介いただく。<br>特殊研からインターネット接続テレビ会議による協議参加実験を行う。<br>（小野主任研究官が対応） |              |            |                                                                                        |      |

|                 |                                                                                  |            |                                                                        |      |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------|------|
| 特別支援教育<br>特別講座Ⅱ | 講義<br>協議                                                                         | 9:30～12:00 | 講義配信 1<br>情緒障害教育研究部長<br>渥美 義賢<br>（「軽度発達障害児の理解と指導」<br>（別撮り）を視聴）         | レジメ他 |
|                 |                                                                                  |            | 講義配信 2<br>情緒障害教育研究部室長<br>花輪 敏男<br>（研究所講義 7 月 18 日「ADHD の<br>理解と支援」を視聴） |      |
|                 | 備考：<br>講義配信は70分程度のものを中休みを挟んで 2 本視聴する。<br>協議等を行わない。<br>視聴終了後、受講者はアンケート記入をして終了とする。 |            |                                                                        |      |
| 特別支援教育<br>特別講座Ⅲ | 講義<br>協議                                                                         | 9:30～12:00 | 分 室 長<br>東條 吉邦<br>（研究所講義 7 月 2 4 日「高機能自<br>閉症の理解と支援」を視聴）               | レジメ他 |
|                 |                                                                                  |            | 備考：<br>講義配信は90分程度を予定。<br>残った時間は会場校の黒田 吉孝校長（滋賀大学教授）がミニ講演と質疑<br>応答を行う。   |      |

7 講座担当者

実施機関： 滋賀県総合教育センター 富永 善隆  
滋賀大学教育学部附属養護学校 石部 和人  
特殊研： 情報教育研究部 大杉 成喜

## 滋賀県総合教育センター

受信場所：滋賀大学教育学部附属養護学校 会議室

講座名：学習障害（LD）講座 特別な教育的ニーズに応じた教育的支援

定員を60名とし、単独受講可としている。若干の増を認めていた。

実施日時：平成15年8月18日(月) 19日(火) 20日(水) 9:30～12:00

受講者：1日目 64名（保幼10名、小27名、中8名、高4名、養13名、その他2名）

2日目 64名（保幼9名、小36名、中7名、高2名、養7名、その他3名）

3日目 60名（保幼7名、小30名、中14名、高1名、養7名、その他1名）

受信機器：ノートパソコン 外部音声出力端子より小型スピーカーに接続

受信状況：画像音声とも良好（ただし、WindowsMediaは受信できず、RealMediaで受信）

### 研修講座の構成

1日目（8月18日）

講義視聴：No.177「LD、ADHD等軽度発達障害への対応」 柘植 雅義（01:19:32）

事例発表：「甲西町発達支援センターの事例」 甲賀郡甲西町立三雲小学校 西谷 淳教諭

特殊研とのテレビ会議による質疑応答：小野主任研究官・海津研究員

2日目（8月19日）

講義視聴：No.173「軽度発達障害児の理解と指導」 渥美 義賢（01:02:21）

・5分間の中休み

講義視聴：No.213「ADHDの理解と支援」 花輪 敏男（01:13:19）

・2日目は講義配信2講座を視聴し、質疑応答等はなし。

・午後より滋賀大学教育学部附属養護学校のワークショップ【夏季講座】が実施された。



3日目（8月20日）

講義視聴：No.219「高機能自閉症の理解と支援」東條 吉邦（01:14:50）

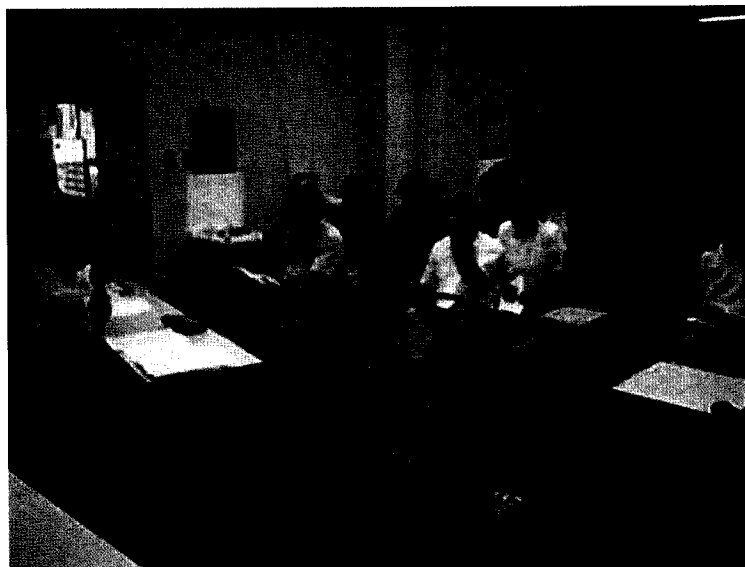
事例発表：久保 容子教諭（滋賀大学教育学部附属養護学校）

講義・質疑応答：黒田 吉孝校長（滋賀大学教授）

- ・ 東條分室長の講義を受けて、現地で事例発表（附属養護学校教諭）と黒田校長より補足・質疑応答を実施した。
- ・ 事例発表では滋賀大学附属養護学校中学部に在籍する自閉症スペクトラムの生徒とADHDの要素を持つ生徒の関係等に関して提案が行われた。

考察：

- ・ 今回は滋賀県総合教育センターのネットワーク回線の問題でインターネット講義の受信ができなかったため、ネットワーク環境のよい滋賀大学教育学部附属養護学校を会場にした。
- ・ 講義資料が電子化されていないため、インターネットでの送付ができず、Faxで送付を行った。今後、全ての資料を講義配信Webサイトよりダウンロードできるように、システムを再構築すべきである。（仕様変更のため新たな予算が必要である。）
- ・ 現地での事例発表、インターネットテレビ会議による質疑応答との組み合わせは好評であった。都道府県のセンター講座の場合、「インターネットによる講義配信も利用する」といった講座構成が必要ではないかと考えられる。



## インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 大阪府教育センター

2 講座の趣旨

(1) 学習障害等の児童生徒の教育指導方法に関する知識や技能についての研修を行い、担当教員の資質及び専門性の向上を図る。

3 講座の内容

(1) LD, ADHD, 高機能自閉症等の理解について

4 講座の対象者及び定員 30名～100名

5 実施予定日・時間

平成15年 9月22日（月）14:10～15:10（平成15年度障害教育担当指導主事研修）

平成15年10月16日（木）14:10～15:10（学習障害等研修）

6 講座の日程

| 内 容                      | 形態   | 時 間         | 配信する講義・担当者                                      | 資 料      |
|--------------------------|------|-------------|-------------------------------------------------|----------|
| LD, ADHD, 高機能自閉症等の理解について | 講義協議 | 14:10～15:10 | 情緒障害教育研究部長<br>渥美 義賢<br>「軽度発達障害児の理解と指導」<br>(別撮り) | レジメ<br>他 |

| 内 容                      | 形態   | 時 間         | 配信する講義・担当者                                      | 資 料      |
|--------------------------|------|-------------|-------------------------------------------------|----------|
| LD, ADHD, 高機能自閉症等の理解について | 講義協議 | 14:10～15:10 | 情緒障害教育研究部長<br>渥美 義賢<br>「軽度発達障害児の理解と指導」<br>(別撮り) | レジメ<br>他 |

7 講座担当者

実施機関： 主任指導主事

須田 正信

特殊研： 情緒障害教育研究部

是枝 喜代治

8 講座実施までのスケジュール

9 その他

## 大阪府教育センター

受信場所：大阪府教育センター 第3研修室（本館4階）

講義視聴：No.173「軽度発達障害児の理解と指導」渥美 義賢（01:02:21）

平成15年9月22日（月） 14：10～15：10

講座名：平成15年度障害教育担当指導主事研修会

受講者：市町村の障害教育担当指導主事37名 他

### 配信現場の状況：

- ・スクリーンセーバーが起動した。配信途中でノイズが割れてしまう場面があった。
- ・配信に使用した部屋が縦長の部屋であったため、後方では画面が見えにくい面があった。
- ・指導主事にとって関心のある内容であり、興味深く聞いたという感想も多かった。

### 受講者より：

- ・今回は市町村の指導主事が対象で、モデル事業等の説明も含めた形で実施されていた。講義配信に対する参加者のイメージの相違もあり、細かな部分での評価は分かれたが、配信そのものの利用については前向きな意見が多かった。
- ・市町村や学校での活用に関しては、大いに活用したいという意見が多かった。
- ・講義の収録に関しては、カメラの目線の位置、問の取り方などの話し方の工夫と共に、効果的なパワーポイントの利用法などを検討していくことが課題であろう。
- ・双方向性のテレビ会議式等の利用について記述されていたが、センターの普段の講座でも、その場では質問が出ずに、かえって後になって個人的に聞きにくるケースが多い。今後の広範な利用を考えるのであれば、双方向として位置づけるよりも、質問の内容について、研修の担当者がとりまとめ、メール等で回答してもらう形の方が現実的であろう。

平成15年10月16日（木） 14：10～15：10

講座名：学習障害等研修（第2回）

受講者：通常の学級、特殊（養護）学級、通級指導担当者、養護学校教員 106名



#### 配信現場の状況：

- ・スクリーンセーバーを切り、音声もパソコンの出力を研修室の音源と接続して流した。
- ・配信後と30分程度経過した時点で、映像画面が止まることあり。その後は回復。終盤に映像が途切れることあり（パソコンの調整の関係と考えられるが、直ぐに復旧する）。
- ・講義配信の後、地元の通級指導教室の先生の実践報告（1時間半程度）があり、それと併せた形で講座が実施された。
- ・前回の受講者からの意見をもとに、画面は3分割のものから、講師の画面を中心としたものに切り替えて実施した。会場の後方部からも、インターネットを通した講師の表情は見えたと、ほとんどの受講者はレジメと資料で説明を聞くという形であった。

#### 受講者より：

- ・概ね良いとする結果であった（受講者の関心や、配信後の実践報告とタイアップして実施した関係もあると考えられる）。指導主事の評価に比べるとやや低い評価と思われる。
- ・アンケートでは、前回同様に音声の問題（聞き取りにくい）や画面の問題（必要性が感じられない等）が明記されていた。また、双方向的な利用（質疑応答）や指導面に比重をかけて欲しい（内容面の充実）旨の意見が見られた。受講者には内容（講義配信の利用）について事前に伝達されていなかったため、センターで実施する必要性を問う意見が見られた反面、学校等で利用するのであれば価値があるという意見も見られた。

## インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

- 1 講座実施機関名  
広島県立教育センター
- 2 講座の趣旨  
(1) A D H D，高機能自閉症の理解と指導の深化を図る。  
(2) 実態把握のためのアセスメントについての理解を深める。  
(3) 実践交流及び協議を通し今後の取組みの参考とする。
- 3 講座の内容  
(1) A D H D，高機能自閉症の理解と指導について  
(2) 実態把握のためのアセスメントの活用について  
(3) 実践交流及び協議
- 4 講座の対象者及び定員  
指導主事及び教諭
- 5 実施予定日・時間  
平成15年8月28日（木）10：00～17：00
- 6 講座の日程

| 内 容                       | 形態       | 時 間             | 配信する講義・担当者                                  | 資料       |
|---------------------------|----------|-----------------|---------------------------------------------|----------|
| 特別支援教育モデル事業について           | 講義       | 10:00～<br>11:00 | 広島県教育委員会障害児教育室<br>担当指導主事                    |          |
| ADHDの理解と指導について            | 配信<br>講義 | 11:00～<br>12:00 | 情緒障害教育研究部室長<br>花輪 敏男（7月18日<br>「ADHDの理解と支援」） | レジメ<br>他 |
| 高機能自閉症の理解と指導について          | 配信<br>講義 | 13:00～<br>14:00 | 分室長<br>東條 吉邦（7月24日「高機能自閉症の理解と支援」）           | レジメ<br>他 |
| 実践交流及び協議                  | 協議       | 14:00～<br>14:30 | 広島県立教育センター<br>指導主事 西谷 勝弘                    |          |
| 実態把握のための<br>アセスメントの活用について | 配信<br>講義 | 14:45～<br>15:45 | 病弱教育研究部研究員<br>海津 亜希子（7月23日<br>「心理検査の解釈」）    | レジメ<br>他 |
| 実践交流及び協議                  | 協議       | 16:00～<br>16:30 | 広島県立教育センター<br>指導主事 西谷 勝弘                    |          |
| まとめ                       | 協議       | 16:30～<br>17:00 | 広島県立教育センター<br>指導主事 西谷 勝弘                    |          |

- |   |                  |       |             |       |
|---|------------------|-------|-------------|-------|
| 7 | 講座担当者            | 実施機関： | 指導主事        | 西谷 勝弘 |
|   |                  | 特殊研：  | 知的障害教育研究部室長 | 竹林地 毅 |
| 8 | 講座実施までのスケジュール    |       |             |       |
|   | 研修会案内の起案，発送      |       | 平成15年4月     |       |
|   | 研修会参加者の把握        |       | 平成15年5月     |       |
|   | 実践報告者及び内容の検討     |       | 平成15年7月     |       |
|   | 講義配信内容の決定及び打ち合わせ |       | 平成15年4月     |       |

## 広島県立教育センター

受信場所：県立教育センター情報教育棟講義室（80名定員）

講座名：障害児教育セミナー

実施日時：平成15年8月28日(木) 10:00～17:00

受講者：特別支援教育推進体制モデル事業総合推進地域 小・中学校教員及びセミナー参加希望者、等合計69名 小学校 49名 (校長 2名, 通常学級担任 16名, 特殊学級担任 25名, 通級指導教室担当者 2名, 養護教諭 2名, 介助指導員 1名, 日本語指導学級担当者 1名) 中学校11名 (通常学級担任 2名, 特殊学級担任 9名) 高等学校 1名 聾学校 2名 教育委員会 3名 療育センター 2名 幼稚園 1名

講義視聴：No.213「ADHDの理解と支援」花輪 敏男 (01:13:19)

No.219「高機能自閉症の理解と支援」東條 吉邦 (01:14:50)

No.218「心理検査の解釈」海津 亜希子 (01:04:56)

受信状況：

- ・センター担当者の考えで、講義1と3は講義者の画面のみ投影。講義2はプレゼンの画面も投影した。
- ・講義室に持ち込んだノートパソコンの設定ができておらず、講義配信の初期画面で停止した。情報教育担当者が設定して視聴できるようになった。
- ・配信途中でこま落ちが発生（当日、センター内で受講者100名程度のインターネット関連の講座が開講されていた影響か？午後の講義はバックアップCDで対応。）
- ・配信途中で閲覧ソフトが終了（持ち込んだノートパソコンのスリープ設定のためか？設定を解除したあとは問題なく作動した。）

受講者の様子

- ・3つの講義が連続ではなく、昼食や指導主事の講義をはさんだりしたためか、最後の講義まで集中力は持続していた。
- ・視聴途中にトラブルがあると、明らかに集中度が低下する。
- ・投影画面の違いについては、それぞれ肯定・否定意見あり。講義者の画面のみの方が投影画面をよく見ている。
- ・具体的な指導法に関わる部分は頷きながらメモをとる受講者が多くなる。



#### 受講者や講座担当者の意見

- ・校内研修に利用したいという要望が複数記述されていた。講座終了直後、観察者に校内研修で使った旨、バックアップ用CDの貸し出しの相談があった。
- ・ライブでの講義の配信をイメージされていた受講者が少なからずあった。
- ・CDなら講座での活用度が上がる。回線の信頼性を考えるとCDを希望されている。
- ・講師旅費や謝金などがいらないので講座が組みやすくなる。配信講義の充実を期待する。
- ・センターが県内の各学校への貸し出しの窓口となることは可能。サテライト研修（出前講座）にも使えらると一層の有効活用になる。

#### 考察：

- ・当初の計画にはなかったが、本講座がモデル事業の指定地域でのコーディネーター養成研修として位置づけられており、受講者のニーズに応じた講義配信になっていた。
- ・受講者にインターネットを利用した講義配信への肯定的なイメージをもってもらうことができた。
- ・改善点として①講義者の画面の拡大が効果的では。②実践報告や協議との組み合わせ等、配信を利用するときにモデルを示す必要がある。③校内研修での利用の要望への早急な対応。④講義者用マイクはピンマイクがよいのでは。⑤ライブでの講義（双方向）の検討。が考えられる。

# インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 宮崎県教育研修センター

2 講座の趣旨

- (1) 教育活動全般にわたって、個々の能力、適性等に応じた研修を実施し、実践的指導力の向上を図り、教諭としての資質の向上に資する。
- (2) 喫緊の課題である通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童への配慮等について研修する。

3 講座の内容

- (1) LD, ADHD等の理解と指導法について、小学校教諭の認識を高める。
- (2) 講義形式による形態をとる。

4 講座の対象者及び定員 小学校10年経過教諭 97名

5 実施予定日・時間 平成15年8月26日(火) 13:00～14:00

6 講座の日程

| 内 容              | 形態 | 時 間                   | 配信する講義・担当者                                      | 資料       |
|------------------|----|-----------------------|-------------------------------------------------|----------|
| LD, ADHD等の理解と指導法 | 講義 | 13:00～14:00<br>途中休憩なし | 情緒障害教育研究部長<br>渥美 義賢<br>「軽度発達障害児の理解と指導」<br>(別撮り) | レジメ<br>他 |

7 講座担当者 実施機関： 情報・相談課 教育相談班 中島 浩美  
特殊研： 情報教育研究部 小野 龍智

8 講座実施までのスケジュール

3月11日(火) 実施機関担当者と特殊研担当者の打合せ

## 宮崎県教育研修センター

受信場所：宮崎県教育研修センター 大研修室

講座名：公立小学校教職経験年数10年経過研修

実施日時：平成15年8月26日(火) 13:00～14:00

受講者：97名

受信状況：概ね良好。時々、ストリーミングが停止した場面があった（2秒程度）。

研修講座の構成：

13:00 事前説明（担当指導主事より）

13:05 講義開始

14:00 講義終了、感想及びアンケート記入

視聴の様子：

- ・いきなり講義が行われた。講義の内容に注目がむくには、時間がかかるように感じる。
- ・最初から、資料に目を落としている人が多い。スクリーンはあまり見ていない。
- ・子どもたちの実際の様子に話が及んでくると、顔を上げて聞く人が増えてきた。
- ・1時間は少々長いのではないかと感じられた。

講義終了後の意見：

- ・講師の映像があるので無機質な感じはしないが、1つの画面に対して2つの情報があるのはどうか。必要のない映像の部分があるのではないか。講師が下を向いているのはよくない。
- ・画面がありながら資料をみななければいけない。画面に資料があるので、そちらのほうにポイントをたくさん書いて欲しい。画面を見るだけでよいような形にして欲しい。ポイントで児童の様子などができるとわかりやすい。
- ・実際に来てもらうとコストなどがかかるが、インターネットを使うと手軽に情報が集められるのではないかな。
- ・確かに一方通行でビデオに録画したものを聞いているような感じで、インターネットの通信の成果を生かしているか？と感じている。



講座担当者用アンケート結果：

- 1) 配信した講義内容についての期待：少し違っていた。

通常の小学校の先生方にとって、もう少し基本的な内容を期待していた。

- 2) インターネットによる講義方法の予想：概ね予想していたとおり。

- 3) 画面の見やすさ：

概ね見やすかった。：動画の部分が小さくて、大勢で見る場合、見にくかった。

- 4) 音声の聴きやすさ：概ね聴きやすい。

- 5) 講義の時間について

概ね適切だった。：配信ということも関係するが、聞くことが主となるので限界かもしれないと思われる。

- 6) メリットと考えられること：

専門的な内容を聞くことができる。

- 7) デメリットと考えられること：

一方向的な配信で、疑問をぶつけることができない。

- 8) 次年度以降の利用について：

利用したい。

- 9) 改善点について：

講義内容の精選（内容の検討）

## **2 平成15年度講義配信による研修に関する アンケート調査結果**

## 5 平成15年度講義配信を利用した研修に関するアンケート調査結果

講義配信視聴後、各センターの受講者と講座担当者にそれぞれアンケート調査を実施した。以下にその結果を示す。

### (1) 受講者について

#### ①受講者の状況

各センターの学校種別ごとの受講者数を表1に示す。学校種別の項目中の「その他」には、管理職、指導主事、養護教諭が含まれる。

表1 各センターの学校種別受講者数 (人)

| 開催場所 | 件数  | 幼稚園 | 小学校  |      |        | 中学校  |      |        | 高等学校 | 盲学校 | 聾学校 | 養護学校 | その他 | 無答 |
|------|-----|-----|------|------|--------|------|------|--------|------|-----|-----|------|-----|----|
|      |     |     | 通常学級 | 特殊学級 | 通級指導教室 | 通常学級 | 特殊学級 | 通級指導教室 |      |     |     |      |     |    |
| 北海道  | 128 |     | 28   | 41   | 3      | 3    | 15   |        |      |     |     | 28   | 10  |    |
| 宮城   | 14  |     | 1    | 3    | 1      |      | 1    |        |      |     |     | 8    |     |    |
| 滋賀   | 134 | 19  | 25   | 23   | 2      | 13   | 5    | 1      | 7    |     | 1   | 18   | 18  | 2  |
| 大阪   | 97  |     | 7    | 20   | 2      | 4    | 3    |        | 5    |     | 2   | 9    | 38  | 7  |
| 広島   | 64  | 1   | 13   | 27   | 1      | 2    | 8    | 1      |      |     | 1   |      | 9   | 1  |
| 宮崎   | 96  |     | 74   | 4    | 2      |      |      | 1      | 1    |     | 1   |      | 13  |    |
| 合計   | 533 | 20  | 148  | 118  | 11     | 22   | 32   | 3      | 13   |     | 5   | 63   | 88  | 10 |

図1は、全受講者数533名の各学校種別の占める割合を表したものである。これによると、全体の約半数が小学校勤務者であり、その内訳は、通常学級担当者27%、特殊学級担当者22%、通級指導教室担当者2%であった。中学校勤務者は全体の11%であり、高等学校、幼稚園勤務者を含めると、特殊教育諸学校外からの参加者が約7割を占めた。

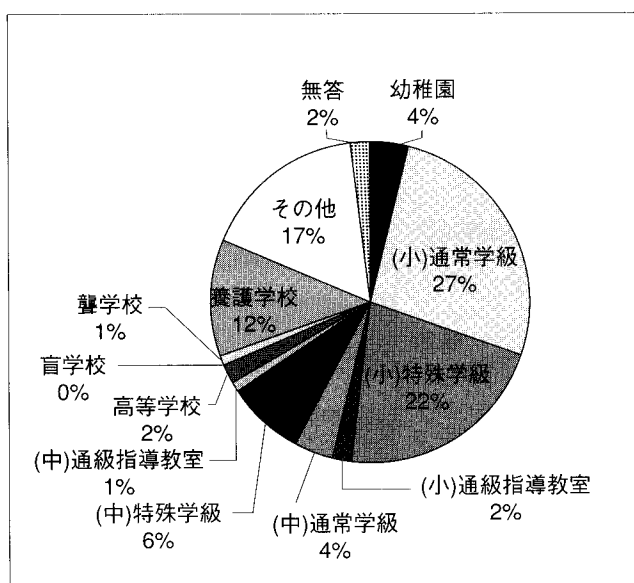


図1 全受講者の学校種別ごとの割合

## ②講義内容の期待程度

配信した講義内容について、期待していたものであったかどうかをたずねた結果を図2に示す。これによると、「期待以上だった」と「概ね期待していた通りだった」を含めると70%の受講者が、概ね、当初講義題目等から期待していた内容通りだったと答えている。

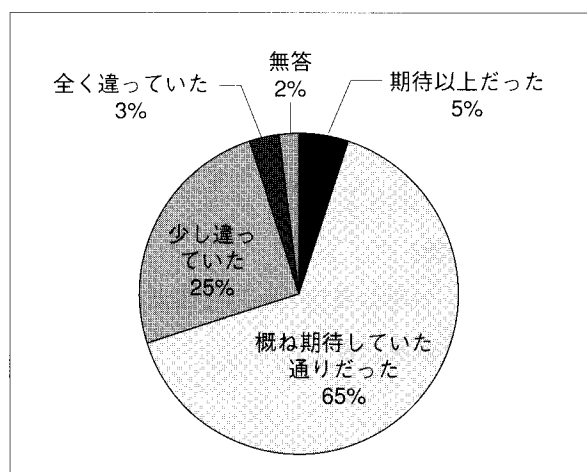


図2 講義内容の期待程度

## ③インターネットによる講義方法の予想程度

次に、インターネットによる講義方法について、予想していたものと同じであったかどうかについてたずねた。その結果を図3に示す。これについても、②の「講義内容の期待程度」と同様に、「予想以上だった」と「概ね予想していた通りだった」を合わせると、約70%の受講者が、概ねイメージしていた通りであったと答えている。

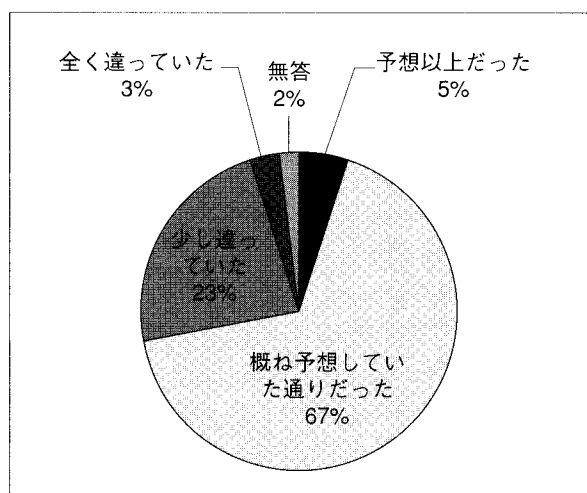


図3 講義方法の予想程度

## ④画面・音声・講義時間の適切さ

具体的な視聴の様子について、「画面の見やすさ」「音声の聴きやすさ」「講義時間の適切さ」の3点に絞ってたずねた。その結果を図4に示す。

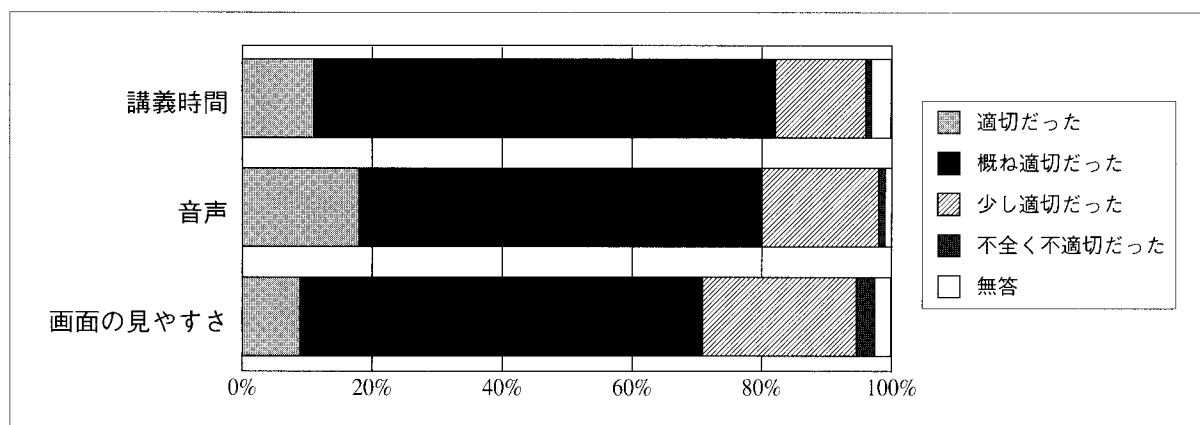


図4 画面の見やすさ・音声の聴きやすさ・講義時間の適切さについて

これによると、「画面の見やすさ」「音声の聴きやすさ」「講義時間の適切さ」いずれにおいても、約80%の受講者が「適切であった」「概ね適切だった」と答えている。

## (2) 講座担当者について

### ①講義内容の期待程度

図5は、配信した講義内容について、期待していたものであったかどうかを講座担当者にたずねた結果である。これによると、「期待以上だった」と「全く違っていった」という両極の回答はなく、「概ね期待していた通りだった」が67%、「少し違っていった」が33%であった。

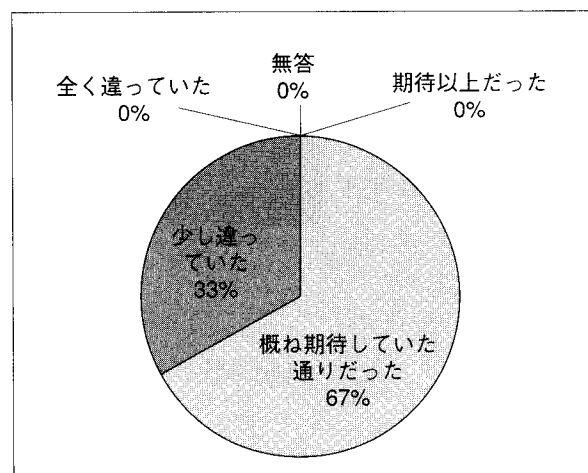


図5 講義内容の期待程度

### ②インターネットによる講義方法の予想程度

図6は、インターネットによる講義方法について、予想していたものと同じであったかどうかについてたずねた結果である。これについても、①の「講義内容の期待程度」と同様に、「予想以上だった」と「全く違っていった」という両極の回答はなく、「概ね予想していた通りだった」が67%、「少し違っていった」が33%であった。

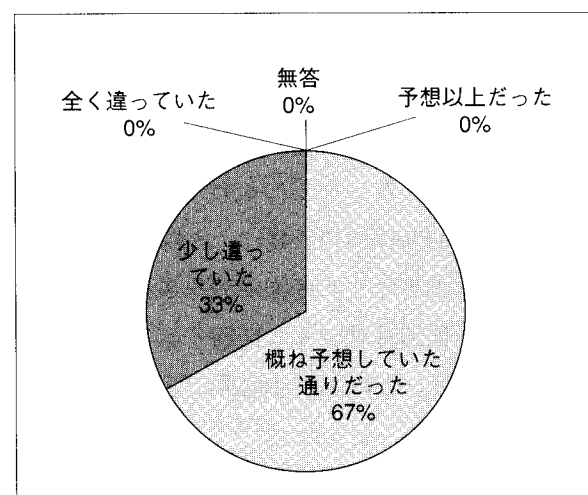


図6 講義方法の予想程度

### ③画面・音声・講義時間

図7は、具体的な視聴の様子について、「画面の見やすさ」「音声の聴きやすさ」「講義時間の適切さ」の3点に絞ってたずねた結果である。これによると、「画面の見やすさ」「音声の聴きやすさ」については、いずれも、「適切であった」「全く不適切であった」という両極の回答はなく、「概ね適切だった」50%、「少し不適切であった」50%と、半々に分かれた。「講義時間の適切さ」については、講座担当者全員が「概ね適切だった」と答えている。

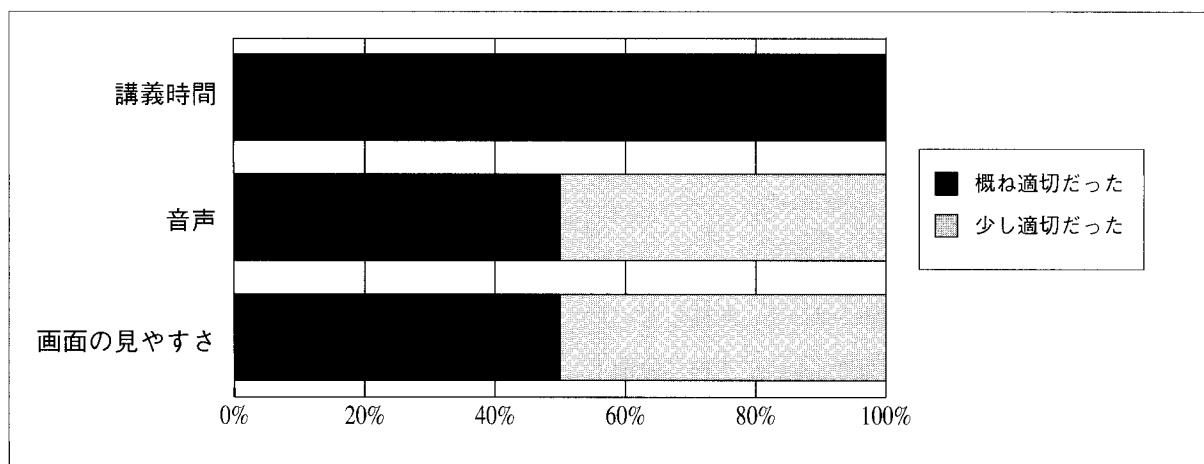


図7 画面の見やすさ・音声の聴きやすさ・講義時間の適切さについて

#### ④インターネットによる講義配信の利用意向

図8は、各センターの研修事業で、インターネットによる講義配信を次年度以降も利用したいと考えているかどうかについてたずねた結果である。これによると、「利用したい」が33%、「検討する」が50%、「利用しない」が17%であった。この「利用しない」の17%については、この講義配信を実施した時期にはすでに、次年度の研修事業計画が立てられており、講義配信による研修を組み込めないという事情があり、このような回答になった。

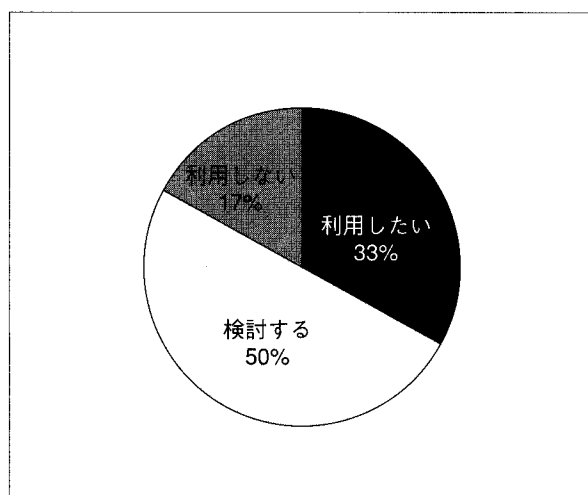


図8 講義配信の利用意向

### 3 総括

## (1) 配信講義の工夫

### ①講義時間と短期研修等での講義の構成

試行では、配信用の講義の時間は1時間を目安にして録画・収録した。その理由は次の3点である。一つは、短期研修等の講義時間である。短期研修等の講義は概ね3時間を1コマとして設定され、実際には1時間20分程度で休憩を入れることが行われている。1時間程度が内容的に自然な区切りになる。二つは、配信を希望する自治体の特殊教育センター等の希望である。希望時間は概ね1時間程度であった。三つは、受講者の疲れ等の考慮である。

試行の受講者のアンケート調査の結果からは、講義時間は概ね適当であったと考えられる。従って、平成16年度以降の本格実施での録画・収録では、講義時間1時間程度が目安になるだろう。録画・収録する短期研修等の講義の構成で考慮することが望まれる。

### ②講義者の話し方の工夫

配信する講義はプロジェクターでの映像（講義者の映像とスライド資料の画像）と音声で構成されており、受講者の臨場感を高める工夫が必要だと考えられる。録画用カメラに時々視線を向ける、身体的な動きを伴って話す等の講義者の話し方の工夫も必要ではないだろうか。これまであまり実施されなかった高等学校や大学での授業研究が広がっており、本研究所においても講義の在り方についての検討が求められる。

### ③スライド資料の工夫

講義者の話し方の工夫に加えて、時間的経過、因果関係、内容の重要度等が視覚的にとらえやすい等、効果的なスライド資料となるような工夫も考えられる。また、技術的な面での留意事項として後述するように、1時間程度の配信用の講義時間に合わせて作成し、スライド資料のソフト（パワーポイント）を終了することができるようにする必要がある。つまり、短期研修等の講義では、3時間の講義用のスライド資料のファイルを分割して作成する必要がある。

## (2) 配信画面の使い方の工夫

配信する講義の映像は、講義者の映像とスライド資料の画像で構成されている。試行では、両方を同時に映した場合と講義者の映像だけ映した場合があった。受講者のアンケートには、両方を同時に映すことと講義者の映像だけ映すことの両方を支持する意見があった。講義配信による講義の視聴時間帯や内容等、研修講座の構成によって切り替えて使う等、特殊教育センター等の運用の工夫が考えられる。配信を希望する特殊教育センター等との打ち合わせで検討すべき事項である。

## (3) 研修講座の構成での留意事項

試行した特殊教育センター等の研修講座の構成は、講義配信のみで構成されたもの（宮城県）、講義配信を講義の一部として構成したもの（広島県、宮崎県）、実践報告や研究協議等と組み合わせて構成したもの（北海道、滋賀県、大阪府）であった。

配信を希望する特殊教育センター等との打ち合わせにおいて、試行での事例について情報提供すべきであろう。併せて、特殊教育センター等が学校の依頼により実施する研修での講義配信の活用も広がるように広報すべきである。

#### (4) 配信講義の質・量的な拡充の検討

平成14年度に実施した配信希望講義調査では、短期研修等の講義の全般にわたって希望があった。今後の本研究所の研修事業の在り方にもよるが、専門性の高い内容や喫緊の課題等に対応した講義の充実を図ることと平行して、平成16年度は、所員が行う短期研修等の講義の全てを録画・収録して、配信用講義リストに挙げる必要がある。

また、短期研修等の事前研修としての活用や別途検討されているインターネットを活用した情報提供等と併せた活用等、e-ラーニングシステムの構築に向けて総合的に検討していく必要があると考えられる。

#### (5) 技術的な面での留意・改善事項

##### ①スライド資料のファイルの作成

短期研修等の3時間の講義の内、1時間程度を講義配信用に録画・収録する場合、スライド資料のファイルを講義に合わせた別ファイルとして作成する必要がある。現在の講義配信用のシステムは、スライド資料のソフト（パワーポイント）の終了と講義画像の録画の終了・収録の起動が連動しており、スライド資料のソフトを終了しない場合、録画が続くことになる。

##### ②外付けのノートパソコンや書画カメラの使用

外付けのノートパソコンや書画カメラの画像は講義者の映像の画面に表示され、これらを使用すると講義者の映像がなくなる。外付けのノートパソコンでスライド資料を提示することは避けたい。

##### ③スライド資料のファイルの事前提出

スライド資料のファイルは、事前に講義配信用システムのパソコンに読み込んでおくことが望ましい。講義の前日までには、研修情報課に提出される必要がある。

##### ④マイクの使用

講義者の音声はマイクで録音しているので狭い研修室でもマイクの使用は不可欠である。研修室内に音声流さずに録音することは可能である。講義者の表情が録画しやすいと考えられるのでピン・マイクの使用が望ましいだろう。

#### (6) 事務手続きの検討

試行での実行委員会と研修情報課が実施した仕事内容を次に示す。

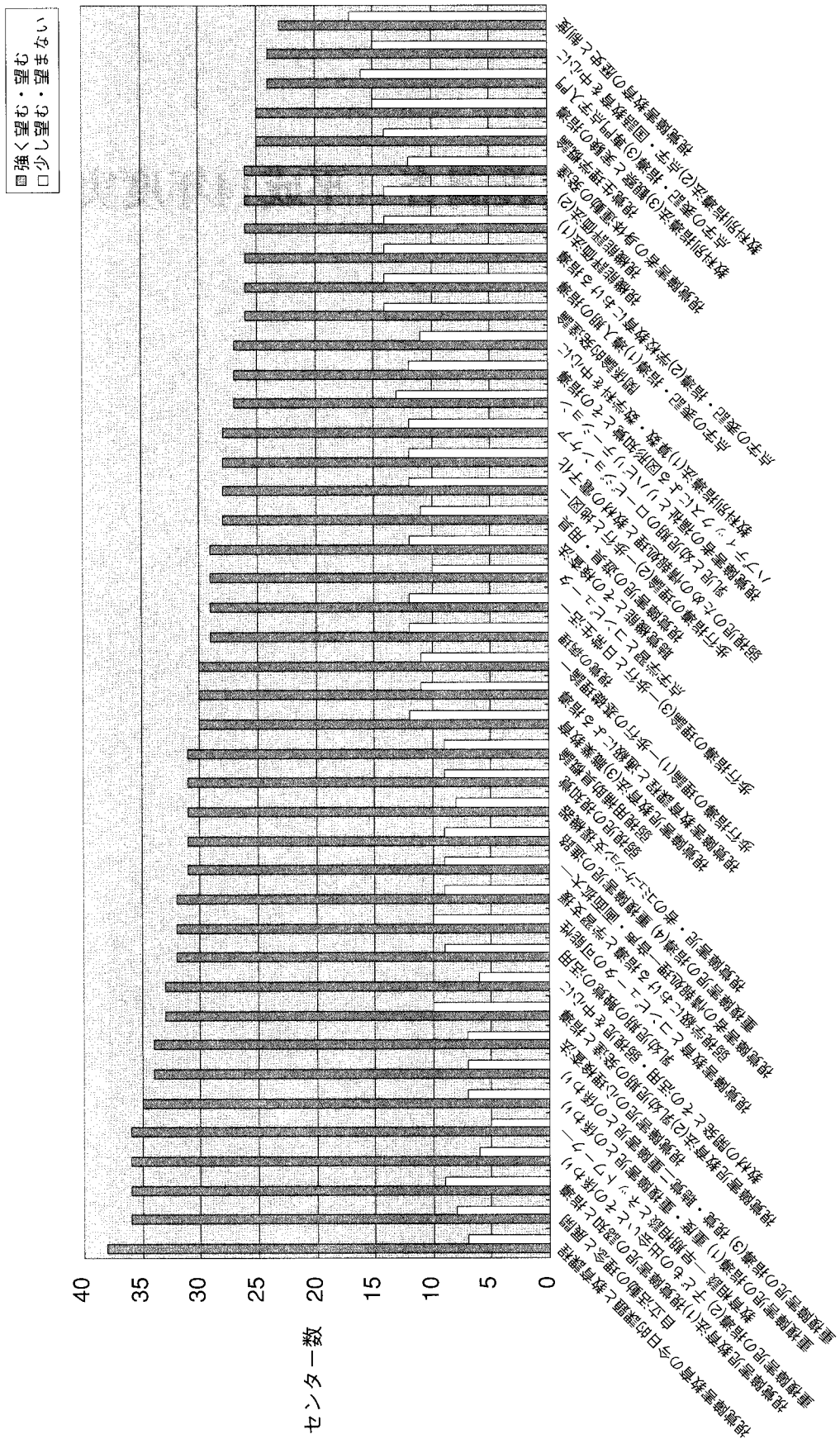
| 研修情報課                                                                                                                                       | 実行委員会                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施要項の作成、配布、利用申請の受付、講義者への承諾書及び著作権への注意を促す文書の作成、担当者が配置されて以降の講義の録画・収録、試行実施特殊教育センター等への講義資料等の発送、アンケート調査用紙の発送・回収・データ入力の手配、所内説明会及び実行委員会の日程調整、開催案内、等 | 試行実施特殊教育センター等との打ち合わせ、アンケート用紙の作成、実施状況調査とまとめ、講義者との連絡・調整（スライド資料作成の補助も）、当初の録画・収録、所内説明会での説明、実行委員会の記録、等 |

実際は、実行委員会と研修情報課との連絡が不十分であったため、試行及び本格実施に向けた準備で不手際が生じた。組織改編後、講義配信の事務手続きの検討が必要となるだろう。

## 4 資料

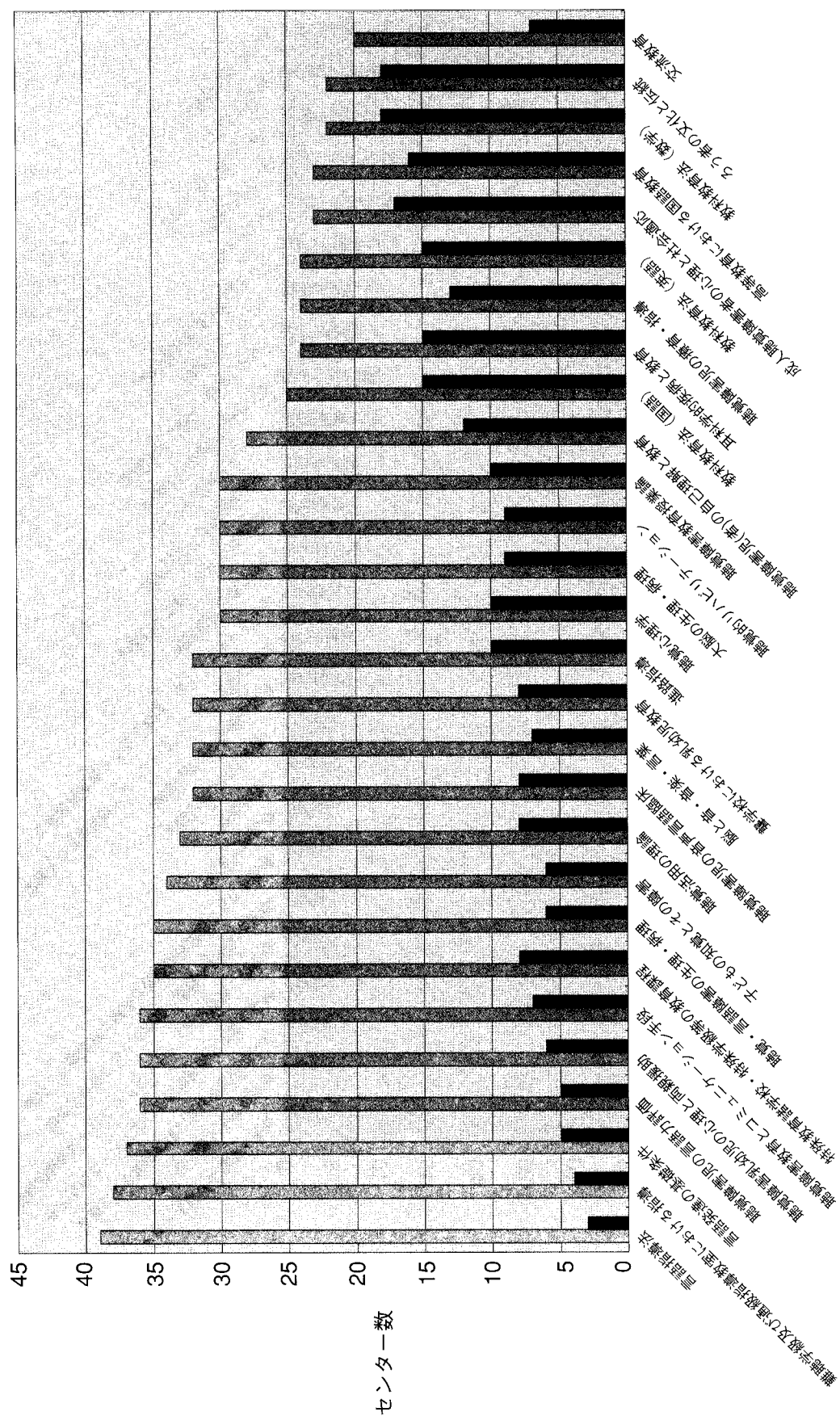
## **配信希望講義調査（平成14年度実施）**

## 配信必要度(視覚障害教育)



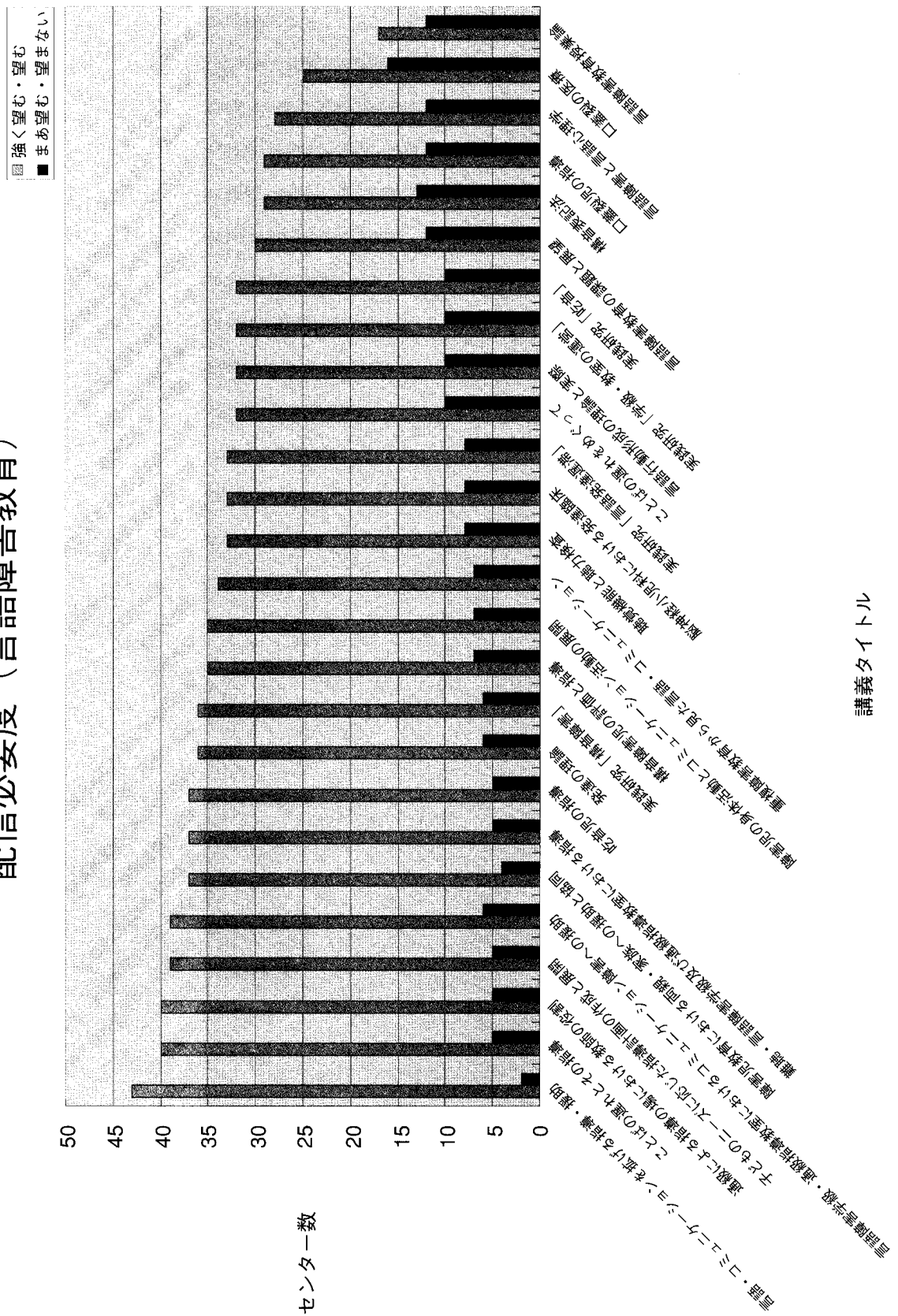
講義タイトル

■強く望む・望む  
■少し望む・望まない

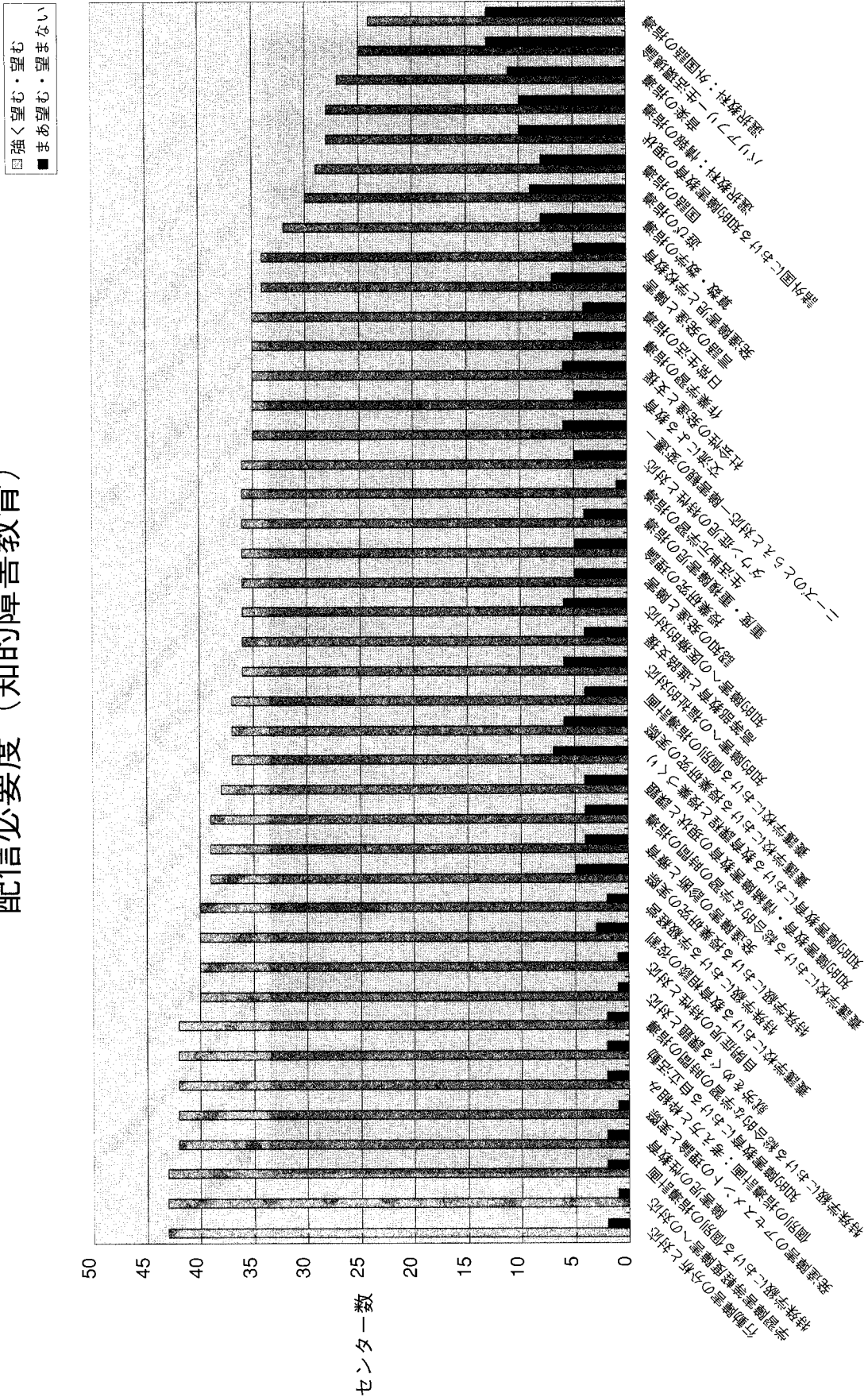


講義タイトル

## 配信必要度（言語障害教育）

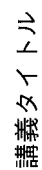


## 配信必要度（知的障害教育）

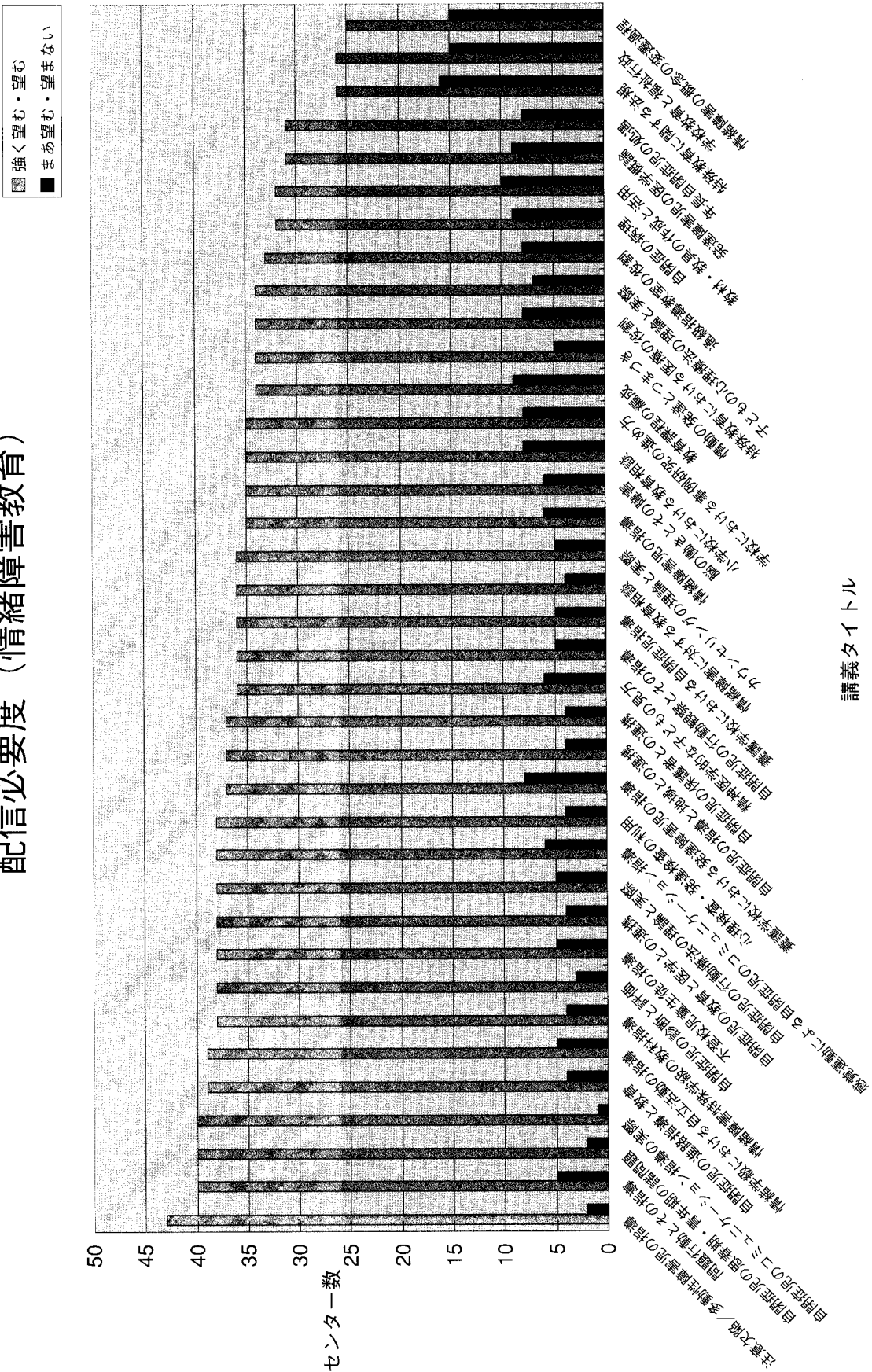


講義タイトル

■強く望む・望む  
■まあ望む・望まない

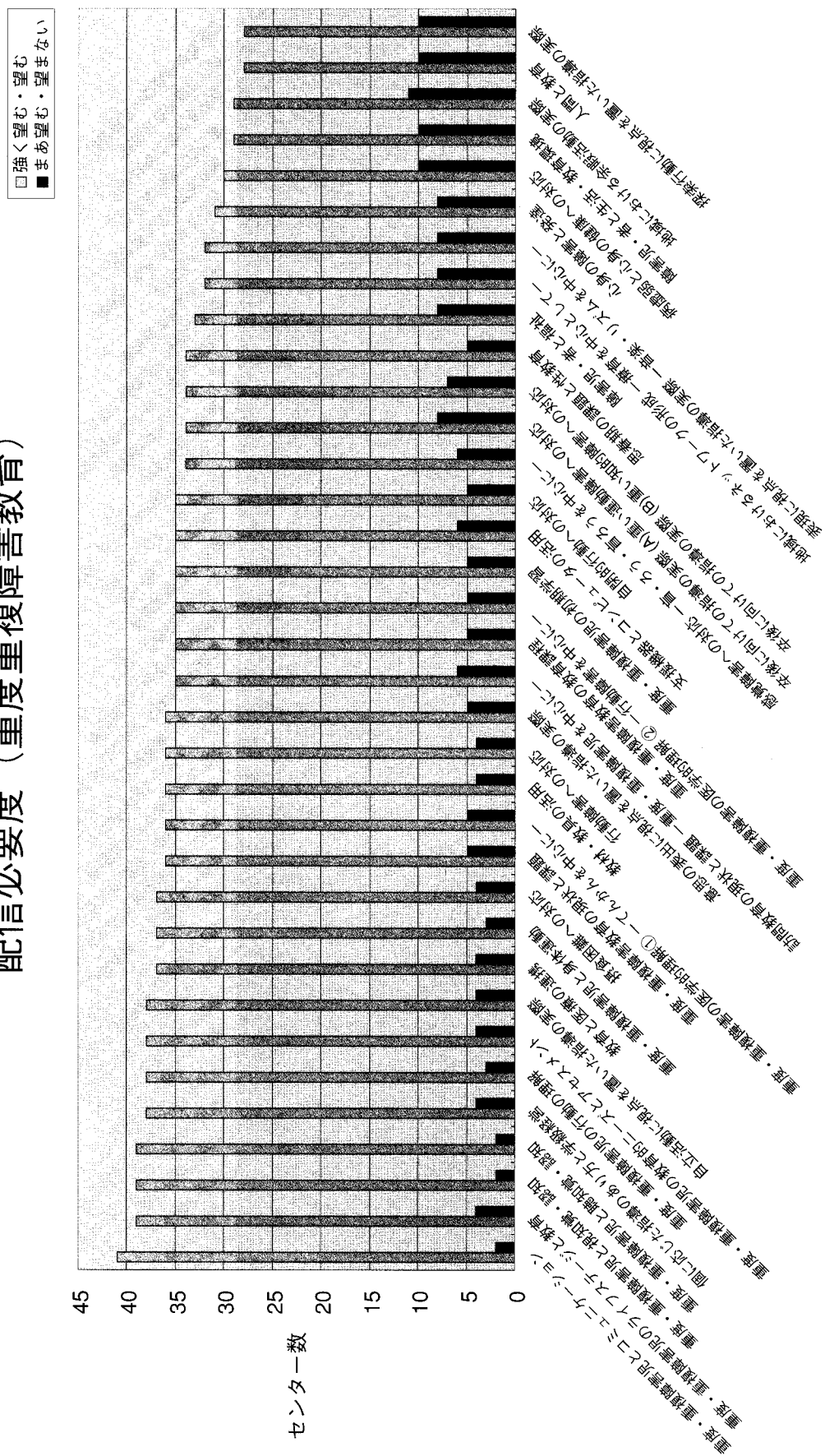


# 配信必要度（情緒障害教育）



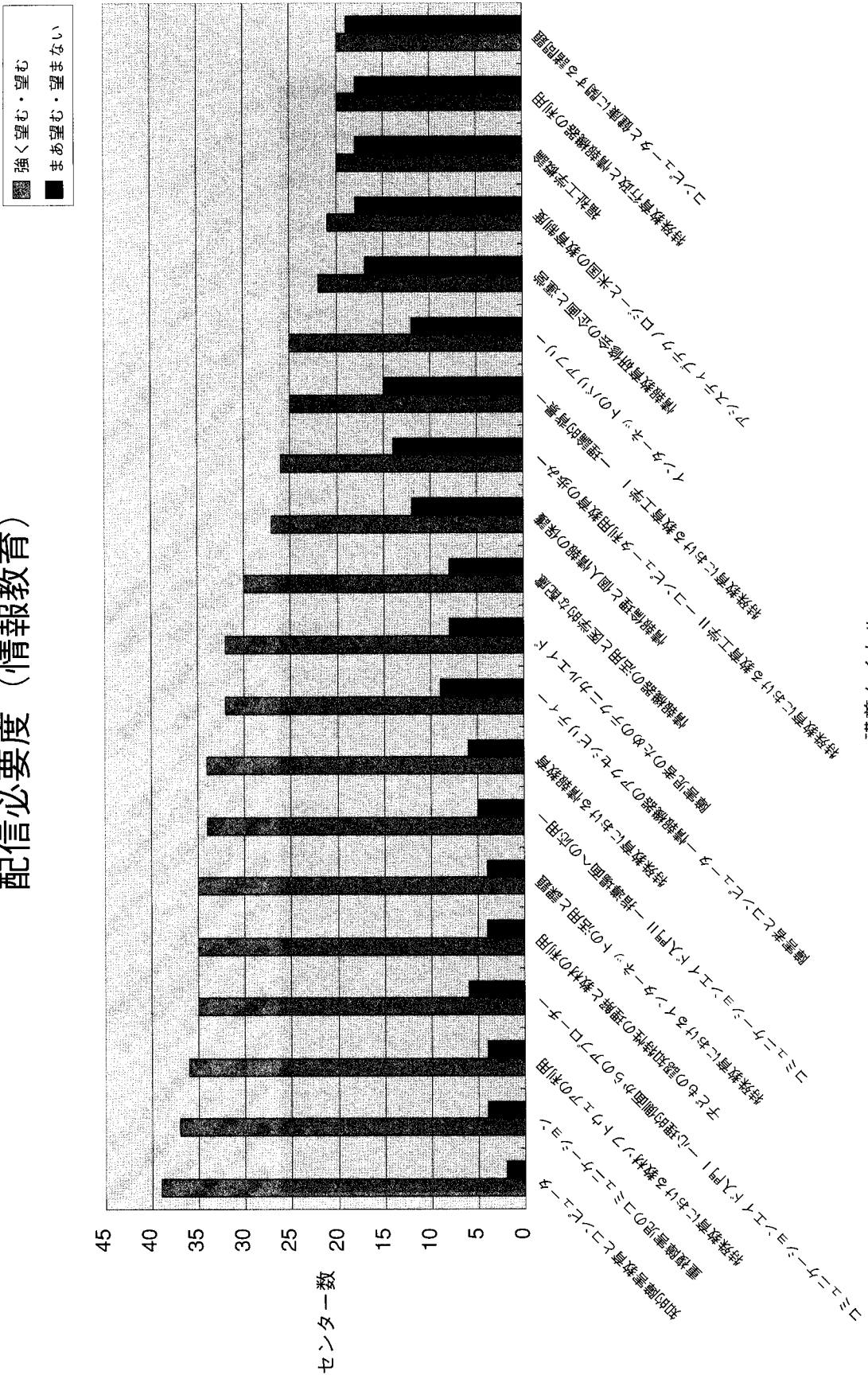
講義タイトル

## 配信必要度 (重度重複障害教育)



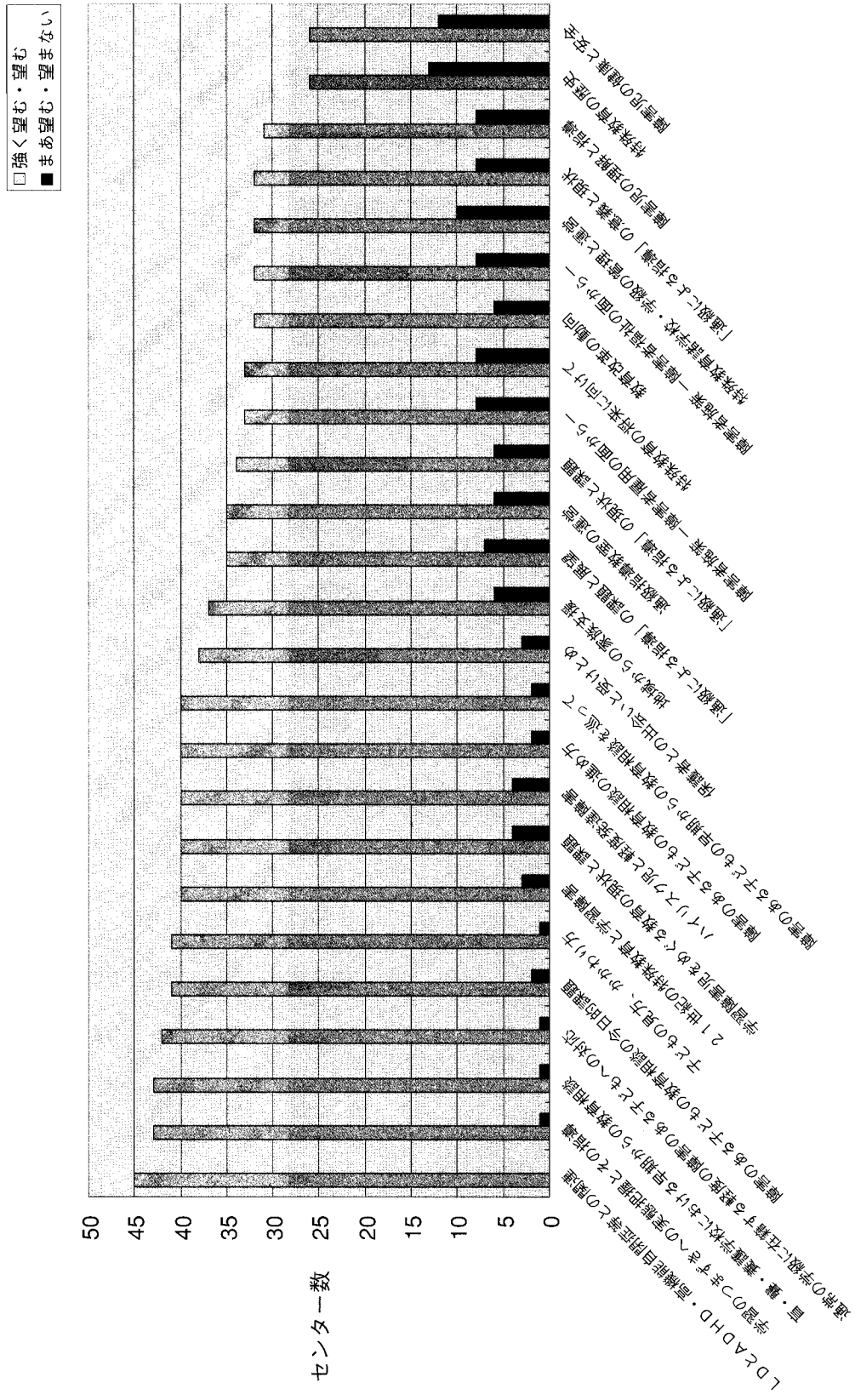
講義タイトル

## 配信必要度（情報教育）



講義タイトル

・ 配信必要度 (学習障害・教育相談・学校経営・通級)



講義タイトル

# 平成15年度国立特殊教育総合研究所講義配信による研修講座実施要項

平成14年12月3日

## 1 趣 旨

独立行政法人国立特殊教育総合研究所（以下、「研究所」という。）は、インターネットを利用した講義配信（以下「講義配信」という。）を行い、各都道府県の特教育センター等（以下、「センター」という。）と共同でセンター等を会場とする研修講座を実施する。

## 2 時 期

7月～8月で学校の夏期休業期間中の1～3日程度

## 3 配信対象

研究所と共催で研修講座実施の取り決めをしたセンター数カ所

## 4 会 場

動画による講義配信の受信が可能な研修施設を有し又は借用できるセンター

## 5 講座のねらい及び内容

### (1) 講座のねらい

最近の話題等各センターでニーズが高い講義、又は専門性が高く講師の確保が難しい講義、各県等で受講希望者数が少ない等の理由によりセンター単独で実施することが難しい講義を配信し、センターの研修の充実を図る。

### (2) 講義の内容

LD, ADHD, 高機能自閉症等最近の話題の講義、センターのニーズに応じて研究所が設定したテーマによる講義など。

## 6 運営について

(1) 受講者の募集、受講者名簿の管理や質疑への対応は、受信するセンターと研究所とが共同して行う。

(2) 実施にかかる細目については、研究所及びセンターが協議のうえ決定する。

## 平成16年度国立特殊教育総合研究所講義配信実施要項

### 1 趣 旨

都道府県・政令指定都市の特殊教育センター等（以下「センター」という。）における研修の充実に資するため、独立行政法人国立特殊教育総合研究所（以下「研究所」という。）の研修等における講義のうち、専門性の高い内容や喫緊の課題などの講義をインターネットを利用して配信（以下「講義配信」という。）するものとする。

### 2 配信対象

研究所に利用申請を行い、利用の決定通知を受けたセンターとする。

### 3 配信する講義

研究所の短期研修及び講習会等における講義で、平成15年度に収録した講義（下記一覧参照）とする。ただし、一覧以外（平成16年度収録予定）の講義については、7月以降に配信するものとする。

### 4 利用期間

平成16年5月1日～平成17年3月31日

### 5 利用申請

平成16年度において講義配信を利用しようとするセンターは、平成16年2月27日（金）までに研究所に利用申請を行うものとする。

また、上記申請以後の利用日の変更等及び追加利用の申請については、センターは早急に研究所まで連絡することとする。

### 6 決定通知

研究所は、センターからの利用申請を受け付け、日程等の全体調整を行った上で、センターに対し、配信の決定通知（視聴用IDとパスワードの配布を含む）を行うこととする。

### 7 利用の解除

利用の決定通知を受けたセンターにおいて、その後の事情により、講義配信の利用を取りやめようとする場合は、早急に研究所まで届け出るものとする。

### 8 経費負担

講義配信の利用に当たり、センターで設置する端末機器及び通信回線設置等の経費はセンター負担とする。

### 9 その他

その他、実施に係る細目については、研究所とセンターが協議の上、決定する。

#### ○平成15年度収録講義一覧

| NO | 講師氏名   | 講 義 題 目             | 研 修 名         | 収録時間 |
|----|--------|---------------------|---------------|------|
| 1  | 渥美 義賢  | 軽度発達障害児の理解と指導       | 短研(情緒障害教育コース) | 62分  |
| 2  | 柘植 雅義  | LD, ADHD等軽度発達障害への対応 | 短研(知的・情緒コース)  | 80分  |
| 3  | 花輪 敏男  | ADHDの理解と支援          | 学習障害児等指導者養成研修 | 73分  |
| 4  | 海津 亜希子 | 心理検査の解釈             | 学習障害児等指導者養成研修 | 65分  |
| 5  | 東條 吉邦  | 高機能自閉症児の理解と支援       | 学習障害児等指導者養成研修 | 75分  |

※ 上記以外の講義題目については、講義配信の準備ができ次第別途お知らせいたします。

## 平成15年度講義配信による研修の試行について（報告）

### <講義配信による研修実行委員会>

- 澤田 真弓 視覚障害教育研究部盲教育研究室主任研究官
- ◎ 竹林地 毅 知的障害教育研究部重度知的障害教育研究室長
- 是枝 喜代治 情緒障害教育研究部情緒障害教育研究室主任研究官
- 大杉 成喜 情報教育研究部教育学研究室主任研究官
- 小野 龍智 情報教育研究部情報教育研究室主任研究官
- 中村 均 情報教育研究部長
- 望月 信夫 総務部研修情報課長（平成14年度）
- 福田 宏 総務部研修情報課長（平成15年度）
- ◎ 実行委員長
- 研修委員会委員長

### <事務局>

- 莊司 政美 総務部研修情報課研修第一係長（平成14年度）
- 岩川 史子 総務部研修情報課研修第一係長（平成15年度）
- 松本 竜大 総務部研修情報課研修第一係（平成15年10月～）

特殊研 D-207

平成15年度講義配信による研修の試行について（報告）

平成16年2月 発行

編 集 講義配信による研修実行委員会

発 行 独立行政法人国立特殊教育総合研究所

総務部研修情報課研修係

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-1-1

TEL : 046-848-4121

FAX : 046-849-5240

E-mail : a-kenshu@nise.go.jp